



令和元年12月2日発行 第8号 生徒数 599名

# 上青木中だより

凡事徹底

～当り前のことが当り前にできる生徒・学校・教職員～

## つづけるバカになれ！！

校長 小野 毅

先日気になるCMが放送されていました。  
そのCMのセリフが以下のようなものでした。

### つづけるバカになれ！！

誰だって迷うときがある。失敗するときがある。自信がなくなるときがある。  
それでも続けるバカになれ！！  
笑われても、苦しくても、歯を食いしばって続けるんだ。  
目指している場所がある限り、自分を信じ続けることができるはずだから。  
最後に笑うのは、続けるバカだ。

そのCMを見た瞬間、自分のこれまでの生き方を振り返りました。私の人生は幼少の頃から、サッカー中心の人生でした。

私の育った場所は川口市の隣の東京都北区でした。荒川の河川敷での試合をきっかけにサッカーにのめり込むことになりました。初めての公式戦で私はなんと一人で3得点をあげる活躍（ハットトリック）をしたのです。キャプテン翼が愛読書だった私は、翼くんになった気分でした。そもそも当時の先生がやんちゃな私たちに悪さをさせないように、そのエネルギーを健全な方向に向かわせようとサッカーをやらせただけだったかもしれません。しかし、この試合をきっかけに私はサッカーにのめり込んでいったのです。

中学校では、サッカー部とクラブチームに所属しました。日々の練習から、技術と体力を身に付けることができました。高校は、サッカーの強豪校を選び、進学しました。強豪校のプレーのレベルに戸惑うこともありましたが、中学生の時に身に付けた技術と体力を武器に先輩たちに挑んでいきました。全国大会出場を目指し、充実した3年間を送ることができました。高校では、厳しい上下関係から礼儀を、過酷な練習から強い精神力を身に付けることができました。さらに、監督からは、サッカーを一生懸命することは当たり前、勉強やクラスのことと同じように一生懸命行い、信頼される人間になることを教えられました。大学へ進学後もサッカーを続けました。大学では、卒業後も悩みなどを相談できる真の友人と出会うことができました。また、中学生時代に所属していたクラブチームのコーチの勧めで、Jリーグの下部組織（小・中・高校生のチーム）のコーチをすることもできました（憧れのブラジル代表選手が同じチームに移籍し、出会うこともできました）。コーチをすることで、どのように教えたら、子供たちが上達できるのかを考えるようになりました。その後、中学校の保健体育の教師となる私の礎となりました。

一つのことをやり続けるには、様々な困難があり、覚悟が必要です。しかし、それ以上に得るものがたくさんあると感じています。上青木中生にもやりがいのあるものをみつけてほしいと思っています。